

平成28年3月30日

関係各位

船橋希望学舎

世田谷区立船橋希望中学校

校長 徳永 啓介

平成27年度学校関係者評価結果報告書を受けた改善方策

学校関係者評価委員会の皆様方には、1年間にわたり熱心な分析・検討を経て、「学校関係者評価結果報告書」をご提出いただきました。その労に深く感謝申し上げますとともに、次年度の学校経営にいかしてまいりたいと存じます。

関係者評価委員の皆様からは、「全体として生徒・保護者ともに『評価が高い項目』が多く、また、肯定的評価が90%を超える項目や、『とても思う』が30%を超え50%に近い項目も数多くあり、大きな成果の上がった1年であった。これは、昨年度の調査結果を踏まえ、『平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策』を基に、校長のリーダーシップのもと、教職員が努力をして改善を図った結果である。」という評価をいただきました。総合所見から昨年同様の以下の課題を提言していただきました。

1. 生徒の「進路指導」について
2. 保護者の「学力」について
3. 世田谷9年教育の『学び舎』の活動について

これらについて、平成28年度も今年度に引き続き下記のような改善方策を策定し、実践していきます。

記

1. 生徒の「進路指導」について

昨年度の提言を受け、進路指導の充実を図ってきた結果、生徒アンケートでは、昨年度より肯定的評価が増加し、否定的評価が減少した。しかし、学年別に分析すると、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」の否定的評価が、1年44%、2年42%、3年18%、「進路に関する情報が十分提供されている」の否定的評価が、1年36%、2年30%、3年8%という結果であり、今年度も「課題のある項目」となっている。

今年度に引き続き、「将来の生き方や進路」への意識化を高めることにより、年間で設定している面談期間だけでなく、いつでも誰にでも進路について相談できる雰囲気を作っていく。また、第1学年、第2学年では年間2回の教育相談を実施する中で、進路のことにも触れ、キャリア教育の周知と充実を図る。

進路情報に関しては、上級学年が行っている進路に関する取り組みを学年便り等を通して紹介する機会をさらに増やし、生徒や保護者に進路選択に関しての適切な情報を提供していく。

2. 「学力」について

生徒アンケートでは「授業の内容はよく理解できる」「先生は黒板の書き方やプリントを工夫し、わかりやすい指導をしている」の評価は年々向上している。しかし、保護者アンケートでは「本校は、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の評価は昨年度から少し改善が見られたが、否定的評価については個別の学年で課題が残った。今年度に引き続き、以下のように取り組んでいく。

- (1) 学力の三要素として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成」「主体的に学習に取り組む態度」が示されており、このバランスをとることが大切であることを、保護者会、教科別説明会、学校便り、学年便り等を通して保護者に啓発するとともに、日々の授業で実践していく。
- (2) 家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る。
1、2年次には、フナキボミニマムを定期テスト前に実施し、基礎基本を定着させるための学習習慣を身につけさせる。
- (3) 思考力、判断力、表現力を育成するため、教育目標である「深く考え方行動する、学ぶ意欲のある生徒」を意識させ、授業では、話を静かに聞くだけでなく、常に疑問をもち、解決策を考え、話し合い活動等を通して、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする力を育成する。また、数値目標を、「私は、主体的に学習に取り組んでいると自覚できる生徒を80%以上にする」とし、生徒のより一層の意識化を図る。

3. 世田谷9年教育の『学び舎』の活動について

保護者、生徒、地域ともに、肯定的評価の割合が増え、否定的評価、わからぬいの割合が減り、改善されていることが確認できた。しかし、生徒の交流については、参加している一部の生徒しかこの活動が意識されていない状況である。

子どもの交流については、部活動を通した交流を広げていく。また、現在行われている学舎の活動について、ホームページ、学年だより等を活用して生徒に対する広報を意図的に行っていく。